

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2013年3月号 まだまだあるよ！スキープログラム♪スキー&雪まつり体験☆



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

## 「ありがとうが言いたいんだ」

盛岡大学文学部社会文化学科4年 高橋みどり(ダダリーダー)

飽き易い私が、大学4年間リーダーを続けてくる事が出来ました。自分でも驚いています。大学生1年生の春、社交性の無い嫌な自分を変えたくて、勢いで飛び込んだ新しい場所が、この盛岡YMCAでした。そこには今まで出会ったことのない変な人たち…先輩やスタッフがいて、新しい出会いや経験が溢れていました。同学年には、時に負けたくないと思える良きライバル、明け方まで語り合い、一緒に悩んだ、いつも支えてくれる仲間たち。スタッフや先輩たちはいつの間にか私の素を引き出してくれて、私はいつまでも追いつけないその大きな背中中に憧れながら、活動をしていました。特に何も考えず、夢中で、予定が空いていたらとりあえず活動に行くというスタンスから、次第に自分でしたいことを見つけて活動に行くようになるころ後輩ができて、後輩たちが吹き込んでくれる新しい風に頼もしく思ったり、時には焦ったりしながら、気づくとあっという間に4年生になっていました。そして、もちろん様々な活動での子ども達との出会

いも私にはかけがえのないものでした。彼・彼女たちの一生懸命に遊ぶ姿、悩む姿、喜ぶ姿…色んな瞬間を共にして、私も様々な事に気づき、悩み、考える機会をたくさん貰いました。しんどいけれどそんな子ども達に会いたくて、活動に行ったことも何度もあります。

子ども達や周りの多くの仲間や出会った人々に支えられて、ここまで来られた私は、なんだか前より楽しく生きられるようになった気がします。笑える思い出が山積みで、誇りたい人々がいて、幸せ者です。本当にいつもありがとうございます!!私はこれからまた違う場所に飛び込みますが、私お得意の無根拠「大丈夫」できっと大丈夫でしょう。盛岡YMCAにはこれからも新しい風が吹きます。そして頼もしい後輩ばかりいるので大丈夫!みなさん、これからも応援よろしくをお願いします!!

# ☆スキー&雪まつり!盛りだくさんの2日間☆

2月16日・17日に、元気な子どもたち19人と6人のスタッフ・リーダー達で、田沢湖県営スキー場に行ってきました。吹雪いていましたが、その状況さえも楽しみ、たくさん滑ってくる事が出来ました。あえて、ふかふかの雪深いところを攻めて突っ込んでみたり、スピードを出して挑戦してみたり、リフトの中で歌ってみたり・・・みんなと滑るスキーはそれだけで何か生まれ、ドキドキワクワクが膨れていきます。そして、夜にはお待ちかねの雪祭り!雪像を興味津津に見つめ、記念撮影をして楽しんだり、立ち並ぶ出店に目を輝かせて買うものを選んだり、火の輪をスキーヤーが様々なポーズで走り抜けるのを夢中で見ていました。そして、もはや毎年の光景・・・高く盛られている雪の壁をよじ登る子どもたち!!みんな、「ここだ!」と決めた場所から、上を目指してひたすらよじ登っていました。何度滑り落ちても挑戦し、ついに制覇して立ち上がると誇らしげな表情。ただの雪の斜面さえ、子どもたちには魅力的な遊具です。最後には恒例の綺麗な花火が上がります。何度か来ている子が教えてくれた、花火がより綺麗に見える場所にみんなで移動して、歓声を上げながら花火を見ました。宿舎に戻ってもなかなか興奮が冷めず、寝るのに苦労する子もいたほど。次の日も思う存分スキーを楽しみ、短いフリータイムも友達を誘って、かくれんぼやカードゲームで盛り上がりました。盛岡に着く頃にはすっかり疲れた様子でしたが、それほどみんなで楽しむことができたのは嬉しい限りです。今年度のスキーのプログラムはこれで終わりますが、スキー以外にもみんなと会えるのをいつもいつも楽しみにしています☆また一緒に遊びましょう!

文責:盛岡大学文学部社会文化学科4年 高橋 みどり (ダダリーダー)



↑ 1日目のお弁当タイム。これからスキーへ出発です!



↑ あいにくの天気でしたが、スキーも満喫してきました。



← リフトからの眺めもなかなかのもの!



完食☆ぺろりと平らげてしまいました! ↓



← 雪まつり♪屋台は定番から秋田ならではのものまで!



↑ 女の子も雪の斜面登りに夢中♪「ファイトー!」「いっば一つ!!」



← 雪まつりのスキージャンプや花火をみんなと見ながらまったり。



← ↑ 誰が1番多く食べられるか!!用意してあったカレーは食べ尽くしてしまいました!

## ☆ リーダー紹介☆ その⑧

久しぶりのリーダー紹介☆まだまだおもしろいリーダーはいますよ!

どうもー!おいなりリーダーですよ(^\_^)  
今回は盛岡YMCAの元気印、ゴリナリーダーこと武田 悠(たけだ はるか)ちゃんの紹介をしちゃうぞー☆

わたしが  
ゴリナだよ~♪



…私とゴリの出会いは、忘れもしない。そう、夏の終わりをを感じる九月の、アドベンチャーミーティングの時でした。ゴリは初対面にも関わらず、いきなり私の手帳にドラえもんやアナゴさんの絵を描き始めたのです。しかもやたらと上手い。私は、「なんて強烈で、面白いリーダーが入ってきたんだ!」と驚愕し、同時に、これからのYの活動がより楽しくなりそうだと感じたのを覚えています。

さてさて、そんな強烈な出会いから約半年。ゴリは、いまや盛岡Yのムードメーカーです!いつも元気に楽しそうに笑うゴリがいると、周りもつられて明るく賑やかになります。大好きなモモクロの歌をよくうたっていますね。その元気っぷりには、あのひげたまごもタジタジだとかなんとか(笑)

そんなゴリは、子供の頃、仙台YMCAのメンバーとしてキャンプなどに参加していたそうです。Yのキャンプや楽しい活動を通じ、今のパワフルなゴリがあるのでしょう!これからも、そんなゴリに注目です!ではでは、おいなりからの紹介は以上です!ご機嫌よう(^\_^)

東北大学教育学部2年 濱塚 直樹 (おいなりリーダー)



僕がゴリナを紹介します!!

# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2月報告書

立春を過ぎてからも宮古は最低気温が氷点下の日が多く、まだまだ寒い日が続きますが、日中は暖かい日差しが時折窓から差し込むようになりました。一番寒い時期からすれば、一歩ずつ春に近づいているのかもしれないね。

さて、YMCA宮古ボランティアセンターの2月の活動は、大学が春休みに入る時期ということもあり、学生YMCAやサークルによるボランティア活動、宮古アドベンチャークラブの実施、新年度を意識したウエルネスプログラムを立ち上げ、ボランティアによる健康相談など、バリエーションに富んだ内容になりました。

週に1回程度、近隣の仮設住宅で交流プログラムを実施いたしました。内容的にはお餅つき会や、カラオケを使った歌の会など、年齢に関係なく幅広い層に楽しんでいただけたものでした。寒さで部屋に引き籠もりがちになってしまい、気持ちが落ち込みがちな今の季節に、仮設住宅にお住まいの皆さんが、若い世代の大学生と楽しいひと時を過ごすことはとても重要であると考えています。最初は消極的な皆さんも、一度歌の会が始まると、誰かがマイクを独り占めすることなく、誰もが知っている曲を皆さんで歌うといった、いわゆる歌声広場のようなプログラムとなりました。またお餅つき会にしても、単なるお振る舞いやサービスを受けるのではなく、返し手や切り分けたりする役割を地域の方々にも協力をお願いして、一緒に参加していただきながら、とても楽しい会になりました。最後まで、参加していた皆さんの表情が生き生きとしていらっしゃいました。

2月の宮古アドベンチャークラブは、盛岡市民の皆さんはご存じの場所かと思いますが、市内にある小鹿公園に雪遊びに行ってきました。元々宮古などの沿岸地域は雪が少ないために、思い切り雪遊びをする機会がありません。参加した被災地沿岸地域の小学生は、そり遊びのほか、雪合戦、雪だるま作りなど、様々な遊びを通じて、滅多に出来ない体験をしてきました。

その他に新たな試みが2つありました。1つは、近隣の仮設住宅の集会所で実施されているお茶の会の中で、YMCAボランティアによる「いきいき健康ひろば」のコーナーを設け、血圧測定や簡単な健康相談コーナーを実施いたしました。看護師の資格を持っているボランティアによる相談は、とてもわかりやすく説明にも説得力があり、近所の人にはなかなか言えないことや、今さら聞けないことでもお話しがしやすいと、早くも大評判でした。集会所には朝の開始直後から人が集まり、終始大忙しでした。

もう1つは、2月18日(月)より新たな試みとして、宮古YMCAサッカークラブを開始いたしました。震災によりストレスを抱える子どもたち、学校の校庭や児童公園には仮設住宅が立ち並んで、遊ぶスペースが限られてしまっている子どもたちへの、遊び場を提供することを目的としています。実施にあたっては、宮古小学校の教職員の皆様と、学童クラブの皆様よりご協力をいただきました。まだ雪が残る宮古小学校の校庭を使ってのプログラムでしたが、途中からまだ申し込みをしていない学童クラブの子どもたちも集まってきて、とてもうらやましそうな表情でこちらを見ていました。練習している最中も、あちらこちらで自然にサッカーボール遊びが始まり、今後活動の輪が少しずつ広がってきそうな予感がしました。

来月は、東日本大震災の地域での追悼行事のお手伝いや、お茶の会を中心に春のプログラムなどを予定しております。

宮古ボランティアセンター長 大谷



↑餅つきは最初のこねが肝心です。地域の方も臼のまわりに集まってきました。



↑定期開催しているカリタスカフェのコーナーで健康相談を行いました。



↑血圧測定のほか、簡単な健康相談も承ります。



↑お餅を切り分ける作業も地域の方と一緒に行いました。



↑皆さんと一緒に餅をいただきながらお茶タイムです。



↑小鹿公園でのそり遊び。合図に合わせて順番にスタートします。

宮古での活動実績  
 ☆受益者数 (1月末のべ人数)  
 ☆ボランティア数 17人  
 ☆ボランティア数 53人  
 ☆ボランティア数 67人  
 ☆ボランティア数 78人  
 ☆ボランティア数 4人



↑ウォーミングアップの後は、ボールを使った練習です。



↑ミニゲームですキックオフで試合が始まりました。



↑小鹿公園で雪だるまを作りました。

☆ゴリナリーダーおすすめの1冊☆  
村上龍 『最後の家族』



みなさん、こんにちは！ゴリナです。ゴリラじゃないですよ～！ゴリナです！笑 いつもうさくて、落ち着きがなく、ふざけてしまう私ですが本当は本を読むのが大好きなんです☆そこで今回は私が大学に入り、友達に勧められ出会った一冊の本を紹介したいと思います(^O^)!

私たちにとって「家族」は最後の共同体です。もし、その最後の「家族」が崩壊したら…？このお話は、ある4人の家族が、家族として、また一人一人の人間として、引きこもり・暴力・リストラ・家族の崩壊など様々な困難に、立ち向かっていく姿を描いています。救いとは何か。自立とは何か。長男は引きこもって1年半。ある日ふと、窓の黒いカーテンに直径10センチの穴をあける。そこから見たものは…？父は、突然のリストラ。大学受験をひかえる娘の学費、母が長男のためにカウセリングを受けるための費用。収入がゼロの今、また家族が崩壊しそうな今、父、母、子それぞれどのような答えをだすのか…。

この本を読んで、何よりも心に残っているのは、自立についてです。自立。それは自分の意思を持ち、行動に移すことです。そうやって自立し、一人で生きていけるようになることは、親しい人を結果的に救うことにつながる。最後のエンディングではこんな家族の在り方があるんだな、とすごく感動し、考えさせられました。私はこれまで自分のことを、自分で決めていただろうか？家族がもし崩壊したら…？など自分に置き換え、たくさん考える機会を与えてくれたのがこの本です。家族のこと、自分のこと、他人との関わりなど、たくさんの発見ができると思います。ぜひ機械があれば手に取って読んでみてください☆

初めの本紹介で、少し緊張気味のゴリナがお伝えしました～^m^

文責：岩手大学教育学部1年 武田 悠(ゴリナリーダー)

～表紙の写真より～



雪まつりの雪像の前で記念撮影。降りつづける雪も照明に照らされて幻想的。でも、子どもたちは屋台や雪遊びに夢中でした～☆

2月16日：たざわ湖スキー場

3月の予定

- ★3月16日(土) サンデースクール 「火も包丁も使わない料理」 (於：おでって5F生活7Fエ)
- ★3月17日(日) フットサル大会 (於：盛岡大学体育館)
- ★3月23日(土) 東日本大震災被災地復興支援チャリティフットサル大会 (於：県営体育館)
- ★3月25日(月)～27日(水) 宮古フレンドシップキャンプ (於：秋田県仙北市 田沢湖スキー場)
- ★3月26日(火)～28日(水) サッカー合宿 (於：いこいの村)
- ★3月29日(金)～31日(日) 3月アドベンチャー 「秋田の分校に泊まろう！」 (於：秋田県仙北市 思い出の潟分校)

こほれ種26

「あなたにとって、春を告げる花は何ですか？」

日本基督教団内丸教会牧師(元日本YMCA同盟 主事) 中原 真澄



盛岡は立春を過ぎた頃になって冬本番を迎える気がします。私の住む中心街も、融雪施設の施された表通りから一步裏に入れば、ガリガリの道が続き、昼間も用心して歩かなければ滑ってしまいます。それでも矢張り日射しは春、日の当たる所には水溜まりが出来ています(これがかえって危なく、夕方になればツルツルになることは住民なら誰もが知っている事です)。

この頃になると春を告げる花がいつ咲き始めるか、待ち遠しくなってきます。関東地方に住んでいた頃は、1月となると蟠梅が先ず咲き始めて春を告げ、次いで水仙、そしてなんとと言っても道端や畦道一面に咲くオオイヌノフグリでした。その小さく可憐で鮮やかな水色は、私にとっては一番の春の花です。

都市化が進む程に、心して小さな命の営みに目を向けないと、私たちの心は謙虚さと柔軟さを失うように思えてなりません。心理学の研究によると、創造的傾向の強い人は、生活の中に自然と親しみ、沈黙を重んじる…そんな時間を大切にしている傾向が強いと聞いたことがあります。群れて忙しいと、周りに流されている自分に気づかず、ただガムシヤラになってしまう…そんな体験は誰にもあるのではないのでしょうか。

身の回りの小さな自然に気づく…それは小さな花の名から始まるのかも知れません。私がYMCAで働いていた頃は、草や花、木々や鳥の名も今よりずっと詳しく覚えていました。見逃しがちな小さな花や鳥に子どもと一緒に目と心を向ける…それは、小さな者にも宿っている魂の大切さに気づくことに繋がっているのだらうと思います。このことなしにYMCA活動は、どれ程に数が多く盛んだとしても、何の意味もないのですから。そして、人も花も、過ぎ去るものだからこそ、大切な、かけがえのないものなのですから。

今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなた方はなおさらのことではないか。(マタイによる福音書6章30節)

感謝

2013年2月27日現在  
順不同・敬称略

●東日本大震災被災地支援募金・献品

- 茨城YMCA、松尾聡子、山田京子、藤井辰夫、横浜西YMCA、日本キリスト教団つきみの教会、日本キリスト教団浦安教会、日本キリスト教団古教会、長谷川牧子、佐々木京子、名古屋恒彦、阿部毛糸店、関スミ子、スワン美容室、佐藤ハナヨ、吉田精肉店、大森桂子、坂下信二、日本基督教団池田五月山教会、立教大学YMCA、大塚友美、清泉YMCA、泉北ワイズ、西宮ワイズ、日本基督教団林間つきみ野教会、日本基督教団番町教会、木下悦子、東矢高明、加藤様、藤原様、柴家様、北村千賀、竹内忠美、堺YMCA、リーダーOB会、社会福祉法人イエス団友愛幼児園、齋藤稜太、鬼柳忠彦、宇土澤光里、西村隆太、広瀬満和、広瀬香織、堺YMCA、名古屋恒彦、大関靖二、中山成子、増田隆、工藤泰、伊藤克見、熊谷力実、箕浦史郎、北田アユ子、川守田浩

●維持会費

- 角谷晋次、角谷千代子、竹内一真、千葉代子、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、池田二郎、今松桂子、下坊和幸、熊谷力実、及川茂夫、及川恵、二、濱塚秋二、田村治之、工藤泰、重石桂司、藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、工藤直子、名古屋恒彦、水田賢次、千葉代子、阿部靖、北田アユ子、今野聖子、今野健男、清水治彦、岩崎スエ、宮崎幸雄、菊池崇江、伊藤真一郎、南原良哉、小林茂元、朴正浩、長澤博真、長谷川精一、飯島隆輔、井上修三、井上優子、井上浩太郎、松尾聡子、石渡隆司、古澤伸、西村隆太、鳥居飛那、山智輝、安藤大貴、土田悠太、川崎真尋、川崎小雪、松岡英樹、田中颯、遠藤幸誠、江口若菜、遠藤マキ子、豊田健太郎、直島カルメン、杉本凜、朝日拓馬、赤坂理輝、三浦颯太、佐々木愛見子、大内宏真、及川忠人、深澤秀男、深澤多紀子

●寄付金

- 角谷晋次、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、今松桂子、下坊和幸、熊谷力実、及川茂夫、及川恵、伊藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、水田賢次、今野聖子、今野健男、伊藤真一郎、朴正浩、石渡隆司、東透、松岡英樹、遠藤マキ子、菊池弘生